

# 第48回 全国トラックドライバー・コンテスト

## 学科競技

# 問題用紙

(競技時間：60分間)

部門 4トン・11トン・トレーラ・女性

氏名

### 注意事項

- ① 解答用紙に書かれている受験番号、氏名を確認すること。  
受験番号は「『部門コード』 - 『ゼッケン番号(2桁(例：青森県=02))』」となる。

部門	部門コード
4トン部門	B
11トン部門	C
トレーラ部門	T
女性部門	W

例) トレーラ部門の青森県代表の選手の場合、受験番号は「T - 02」となる。

- ② 解答はすべて別紙の解答用紙(マークシート方式)に記入すること。
- ③ 解答用紙(マークシート方式)は、鉛筆を使用して必要な箇所にマークすること。なお、誤ってマークした場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ④ この問題用紙は、試験開始の合図があるまで開かないこと。
- ⑤ 問題用紙を一通り見て、印刷の不鮮明なところがあれば挙手をして係員に申し出ること。
- ⑥ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑦ 試験開始45分経過後より退室してよいが、解答用紙は机上に伏せて、他の選手の妨げにならないよう静かに退室すること。一度退室したら再度入室は認めない。
- ⑧ 時間については、試験終了10分前と5分前に終了を予告をする。
- ⑨ 落とした筆記用具の拾得等、試験時間中に何らかの問題が生じた場合は、挙手をして係員に申し出ること。

# I 法規 (40 問)

## 【4 肢択一式問題】

問1. 駐停車に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 歩道や路側帯のない道路に駐車するときは、車の左側に0.75メートルの余地をあげなければならない。
2. 路側帯が広い場合にはその中に入って駐車できるが、その場合は車の左側に0.5メートルの余地をあげなければならない。
3. 駐車した場合、車の右側に3.5メートル以上の余地がなくなる場所では駐車はできないが、貨物の積卸しを行なう場合で運転者がその車両を離れないときは駐車することができる。
4. 車両通行帯のあるトンネルでは駐停車することができる。

問2. 緊急自動車の優先等に関するア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 交差点内やその付近で緊急自動車が近づいてきたときは、交差点内またはその付近で一時停止して進路を譲らなければならない。
- イ 交差点やその付近以外で緊急自動車が近づいてきたときは、道路の左側に寄り一時停止して進路を譲らなければならない。
- ウ 一方通行路において緊急自動車が近づいてきたときは、道路の左側に寄って進路を譲らなければならない。
- エ 高速道路で緊急自動車が本線車道に入ろうとしているときは、その通行を妨げてはならない。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

**問3.** 進路変更や合図に関するア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。  
解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 進路変更をするときは、進路変更する地点の30メートル手前で合図を出さなければならない。
- イ 車両通行帯が黄色の線で区画されている場合は、緊急自動車に進路を譲るなどの場合を除いて、その黄色の線をこえて進路変更することはできない。
- ウ 進路変更時や右左折時は合図が必要だが、徐行や停止をするときには合図は必要ない。
- エ 進路変更などの合図が必要な行為をしないにもかかわらず当該合図をしてはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

**問4.** 交差点の通行に関するア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 右折するために、直進車や左折車よりも先に交差点に入った場合でも、直進車や左折車の進行を妨害してはならない。
- イ 左折するときは内輪差を考慮し、できるだけ左側端に寄らないようにして徐行する。
- ウ 交差点の前方の交通が混雑しているため、交差点内で停止し、交差道路の車などの進行を妨げるおそれがあるときは、徐行して交差点に進入しなければならない。
- エ 交通整理の行なわれていない道幅が同じような道路の交差点では、左方からくる車の進行を妨げてはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

問5. 軌道敷内は通行が禁止されているが、右左折のために軌道敷内を横切るときは通行することができる。

問6. この標識のある場所は、乗用自動車は通行できるが、貨物自動車は通行できない。



問7. 前方の道路渋滞等により、横断歩道内で動きがとれなくなるおそれがあるときは、横断歩道に入ってはならない。

問8. 車を後退させるときは、シートベルトの着用は免除される。

問9. 助手席同乗者が不用意にドアを開けたために交通の危険が生じた場合は、運転者には責任はない。

問10. 「左折可」の標示板のあるときは、前方の信号が赤であっても、他の交通に注意しながら進行することができる。

問11. 信号機のある交差点において、警察官の手信号による指示は「停止」だったが、信号機が青信号だったので、信号機の表示に従ってそのまま進行した。

問12. 追越禁止場所でも、自転車であれば追い越してもよい。

問 13. 環状交差点で直進するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄るとともに、できる限りその側端に沿って（道路標識等により通行部分が指定されているときは、その部分）、徐行しなければならない。

問 14. 車両横断禁止の標識のある場所でも、道路の右側部分にある駐車場などの施設に入るために右折する場合は道路を横断することができる。

問 15. 路線バスの優先通行帯においては、道路混雑などにより、後方から路線バスが近づいてきたときに優先通行帯から出られなくなるときは、左折する場合ややむを得ない場合を除いて通行してはならない。

問 16. 時速 40 キロで走行中、徐行の標識のある場所にさしかかったので、時速 20 キロに減速して進行した。

問 17. 前車に続いて踏切に進入するときでも、一時停止して安全確認をする。

問 18. 右左折して道路に面した施設に出入りするために歩道を横断する場合、明らかに歩行者がいない場合は、徐行して進行する。

問 19. この標識は、最大積載量が 5.5 トンを超える車は通行できないことを示している。



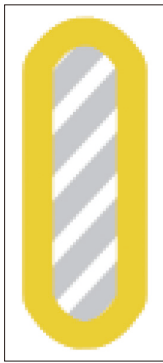
問 20. 赤色の点滅信号の場合、車も歩行者も必ず一時停止して安全確認をしなければならない。

問 21. 同一方向に二つの車両通行帯が設けられているときは、どちらの車両通行帯を通行してもよい。

問 22. 警察署長の許可を得て歩行者用道路を通行するときは、歩行者がいない場合でも徐行して進行する。

問 23. コンビニエンスストアで飲料水を買うなどで、短時間、車を離れるときにはエンジンを切らなくてもよい。

問 24. この標識は、立入り禁止部分を示しており、車はこの中へは入れない。



問 25. 最大積載量が5トンの貨物自動車の高速自動車国道における法定最高速度は、時速100キロメートルである。

問 26. 中型免許で大型自動車を運転した場合は、大型自動車等無資格運転となる。

問 27. 自動車専用道路の最低速度は、時速50キロである。

問 28. 貨物を積載している貨物自動車の場合は、貨物の看守に必要な最小限度の人員を荷台に乗車させることができる。

問 29. 車庫などの自動車専用の出入口から5メートル以内の場所は駐車禁止である。

問 30. 警察官は、道路の損壊や火災の発生などにより交通の危険が生じるおそれがあるときは、一時、車や歩行者の通行を禁止したり、制限することができる。

- 問 31. 優先道路以外の道路を走行中に交通整理の行なわれていない左右の見とおしのきかない交差点にさしかかったとき、一時停止の標識や標示がない場合には一時停止をする必要はないが、徐行はしなければならない。
- 問 32. 「警笛区間」の標識のある区間内を通行するときには、危険と感じた場所で警笛を鳴らさなければならない。
- 問 33. 交差点を右左折するときは、横断歩行者等がない場合でも徐行して進行する。
- 問 34. 勾配がゆるやかであっても、下り坂を通行するときには徐行しなければならない。
- 問 35. 身体障害者用車いすが通行しているときは、徐行又は一時停止をして、その通行を妨げないようにする。
- 問 36. 貨物を積載するときは、積載している貨物の転落や飛散を防止するための措置を講じる。
- 問 37. 走行中の車から煙草の吸殻や紙くずを投げ捨てるのは、違反行為ではないが、マナーに反する恥ずべき行為である。
- 問 38. 道路交通法の規定では、走行中に携帯電話やスマートフォンなどの画像を注視することは禁止されているが、液晶の速度計の注視については禁止されていない。
- 問 39. 貨物自動車に積載できる貨物の幅は、自動車の幅の 1.1 倍までである。
- 問 40. 赤信号により交差点の手前で停止したり、停止しようとして徐行している車の前に割り込んではならない。

## Ⅱ 構造機能 (20 問)

### 【4 肢択一式問題】

問 41. 事業用貨物自動車の点検整備に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 運行開始前の日常点検の結果により、運行の可否を決定するのは整備管理者である。
2. 日常点検は、1日1回、運行の開始前に行わなければならない。
3. 定期点検整備は、6か月ごと、12か月ごとの2種類があり、自動車点検基準により行わなければならない。
4. 点検整備記録簿の保存期間は、1年間である。

問 42. 事業用貨物自動車の日常点検に関するア～エの点検内容のうち、走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りるものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 冷却水の量が適当であること。
- イ ブレーキの液量が適当であること。
- ウ 駐車ブレーキ・レバーの引きしろが適当であること。
- エ タイヤの溝の深さが十分であること。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ



問 43. 方向指示器に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 方向指示器は、方向の指示を表示する方向 150 メートルの位置から、昼間において点灯を確認できるものであること。
2. 方向指示器は、毎分 60 回以上 100 回以下の一定の周期で点滅するものであること。
3. 方向指示器の灯光の色は赤色であること。
4. 方向指示器は、他の灯火の点灯状態にかかわらず、点灯操作及び消灯操作が行えるものであること。

問 44. 道路運送車両の保安基準に関するア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 自動車の幅は、2.2 メートルを超えてはならない。
- イ 自動車の軸重は 10 トン（牽引自動車のうち告示で定めるものにあっては 11.5 トン）を超えてはならない。
- ウ 自動車の輪荷重は 5 トン（牽引自動車のうち告示で定めるものにあっては 5.75 トン）を超えてはならない。
- エ 自動車の最小回転半径は、最外側のわだちについて 12 メートルを超えてはならない。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

## 【○×正誤式問題】

次の問 45 から問 60 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

問 45. 貨物の運送の用に供する普通自動車の左側面には巻込防止装置を備えなければならないが、右側面には備えなくてもよい。

問 46. タイヤには、残り溝が 1.6 ミリメートルになると現れる「スリップサイン」が設けられている。

問 47. 車幅灯は、夜間にその前方 200 メートルの距離から点灯を確認できるものであり、かつ、その照射光線は他の交通を妨げないものでなければならない。

問 48. 長さが 5 メートルを超える普通自動車の両側面には、側方灯又は側方反射器を備え付けなければならない。

問 49. セミトレーラ以外の自動車であって、最遠軸距が 5.5 メートル未満の場合の車両総重量は、25 トンを超えてはならない。

問 50. 番号灯は、夜間後方 20 メートルの距離から自動車登録番号標、臨時運行許可番号標、回送運行許可番号標又は車両番号標の数字等の表示を確認できるものでなければならない。

問 51. すれ違い用前照灯は、その全てを同時に照射したとき、夜間にその前方 50 メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有していなければならない。

問 52. 自動車の高さは、3.8 メートルを超えてはならない。

- 問 53. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって車両総重量が8トン以上のものの後面には、後部反射器を備えるほか、大型後部反射器を備えなければならない。
- 問 54. 自動車に備える非常点滅表示灯は、すべてが同時に作動する構造でなければならない。
- 問 55. 自動車（一般乗合旅客自動車運送事業用自動車を除く。）の前面ガラスの上方には、灯光の色が青紫色である灯火を備えてはならない。
- 問 56. 警音器は、運転者が運転席において、音の大きさ又は音色を容易に変化させることのできるものであってはならない。
- 問 57. 非常信号用具は、夜間 150 メートルの距離から確認できる赤色の灯光を発するものでなければならない。
- 問 58. 貨物自動車の車体の後面には、車両総重量を表示しなければならない。
- 問 59. 車両総重量 8 トン以上の事業用自動車については、ディスク・ホイールの取付状態が不良でないかどうかを点検しなければならない。
- 問 60. 天然ガス自動車は CO<sub>2</sub> 排出量をガソリン車やディーゼル車より低減でき、窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>) や黒煙等の粒子状物質 (PM) といった大気汚染物質の排出量も少ないため、地球温暖化防止や大気環境改善にも貢献できるとされている。

### Ⅲ 運転常識 (20 問)

#### 【4 肢択一式問題】

問 61. 運転時の危険な現象に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 「フェード現象」とは、フットブレーキを使い過ぎると、ブレーキドラムやブレーキライニングが過熱して摩擦力が減少し、ブレーキの効きが悪くなる現象をいう。
2. 「スタンディングウェーブ現象」とは、タイヤの空気圧が低い状態で高速走行をすると、タイヤに波状の変形が生じる現象をいう。
3. 「ベーパー・ロック現象」とは、高速走行時に急ブレーキをかけるとタイヤがロックする現象をいう。
4. 「ハイドロプレーニング現象」とは、路面が水で覆われているときに高速で走行すると、タイヤが水上スキーのように水膜の上を滑走し、ハンドルもブレーキもきかなくなる現象をいう。

問 62. 貨物自動車運転者の拘束時間に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 1か月の拘束時間の限度は、原則として300時間である。
2. 1日(始業時刻から起算して24時間)の拘束時間は13時間以内を基本とし、延長する場合でも18時間が限度である。
3. 乗務の途中でフェリーに乗船する場合、乗船時間は原則として休息期間として取り扱う。
4. 拘束時間とは、労働時間と休憩時間を合わせた時間をいうが、仮眠時間は拘束時間には含まれない。

**問 63.** 事業用貨物自動車の運転者に対する「点呼」(ただし、輸送の安全の確保に関する取組が優良であると認められる営業所において、国土交通大臣が定める機器による方法によるものを除く。)に関するア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。 解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 乗務前及び乗務後の点呼は対面点呼が原則だが、営業所と車庫が離れている場合は電話その他の方法で点呼を行うことができる。
- イ 乗務前及び乗務後の点呼のいずれもが対面で行うことができない乗務を行う運転者に対しては、当該点呼のほかに、乗務の途中において少なくとも1回電話その他の方法により点呼を行わなければならない。
- ウ 乗務後の点呼では、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況並びに他の運転者と交替した場合にあっては輸送安全規則第17条第4号の規定による通告について報告を求めるとともに、酒気帯びの有無について確認を行わなければならない。
- エ 点呼の際の酒気帯びの有無の確認については、目視等による確認で酒気帯びのおそれがないと認められる場合には、アルコール検知器を用いた確認は省略することができる。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

**問 64.** スピードと運転に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1. 車の制動距離は、スピードの2乗に比例して長くなる。
- 2. スピードが2倍になれば、カーブで働く遠心力も2倍になる。
- 3. 高速で走行すると視力が低下して、近くのものはぼやけて見える。
- 4. 夜間高速で走っていると速度感が鈍り、速度を出し過ぎる傾向がある。

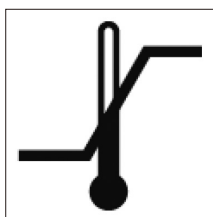
【○×正誤式問題】

次の問 65 から問 80 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

問 65. 「死者又は負傷者が生じた事故を引き起こした運転者」、「運転者として新たに雇い入れた者」、「60 歳以上の高齢運転者」については、国土交通大臣が告示で定める適性診断を受診しなければならない。

問 66. 高速道路における車間距離については、路面が乾燥していてタイヤが新しい場合は、時速の数字から 15 を引いた数字（時速 100 キロメートルの場合は、 $100 - 15 = 85$ メートル）を目安とするのがよい。

問 67. この荷扱い指示マークは、温度制限を示している。



問 68. 減速するときは、早めにエンジンプレーキを使って惰行運転で減速しながら、最小限のフットブレーキをかけることが省エネ運転につながる。

問 69. 休息期間は勤務終了後に継続して 8 時間以上が原則だが、業務の必要上分割して与えることができる。その場合は、1 日において、1 回が 4 時間以上、合計が 8 時間以上でなければならない。

問 70. 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」（改善基準）に抵触しない 1 日の最大運転時間は、16 時間である。

問 71. 車を運転中に大地震が発生したときは、津波から避難するためやむを得ない場合を除き、避難のために車を使用しない。

- 問 72.** 乗務前及び乗務後のいずれも対面点呼ができない運行を含む乗務の場合、運転者は運行指示書を携行するとともに、運行の途中に運行指示書の記載事項に変更が生じた場合は、変更内容を運行指示書に記載しなければならない。
- 問 73.** 片側が転落のおそれがあるがけになっている道路で、安全な行き違いができないときは、下りの車が一時停止して上りの車に進路を譲る。
- 問 74.** 大型自動車や中型自動車は、普通自動車に比べて運転席の位置が高く見下ろす形になり、車間距離が実際よりも長く感じられるため、車間距離が短くなりやすいので注意する。
- 問 75.** 乗務員は、故障等により踏切内で運行不能となったときは、速やかに列車に対し適切な防護措置をとらなければならない。
- 問 76.** 事業用自動車に貨物を積載するときは、偏荷重が生じないように積載するとともに、運搬中の荷崩れ等による落下を防止するため、貨物にロープ又はシートを掛けるなど必要な措置を講ずる。
- 問 77.** 連続運転時間は4時間までであり、それを超えて運転をする場合には、1回が5分以上、合計が30分以上の運転の中断（休憩等）が必要である。
- 問 78.** ある特定日の運転時間が11時間であった場合、その前日の運転時間が8時間、その翌日の運転時間が7時間であった場合には、改善基準告示違反とはならない。
- 問 79.** 走行中に、自動車の運転に支障を及ぼすおそれのある一定の病気等に係る前兆や自覚症状が現れた場合には、運転者は無理に運転を継続せず、近くの駐車場やパーキングエリア等にて休憩をとり、速やかに運行管理者等に報告する。
- 問 80.** 高速でトンネルに入ると視力が急激に低下するので、あらかじめ手前で速度を落とす。

# 第48回 全国トラックドライバー・コンテスト 学科競技解答

(公社)全日本トラック協会

## I. 法規

問	選択肢			
	1	2	3	4
1			3	
2	1			
3		2		
4		2		

問	○	×
5	○	
6		×
7	○	
8	○	
9		×
10	○	
11		×
12	○	
13	○	
14		×
15	○	
16		×
17	○	
18		×
19		×
20		×

問	○	×
21		×
22	○	
23		×
24	○	
25		×
26		×
27		×
28	○	
29		×
30	○	
31	○	
32		×
33	○	
34		×
35	○	
36	○	

問	○	×
37		×
38	○	
39		×
40	○	

## II. 構造機能

問	選択肢			
	1	2	3	4
41			3	
42		2		
43				4
44			3	

問	○	×
45		×
46	○	
47		×
48		×
49		×
50	○	
51		×
52	○	
53		×
54	○	
55	○	
56	○	
57		×
58		×
59	○	
60	○	

## III. 運転常識

問	選択肢			
	1	2	3	4
61			3	
62			3	
63		2		
64		2		

問	○	×
65		×
66		×
67	○	
68	○	
69		×
70		×
71	○	
72	○	
73		×
74	○	
75	○	
76	○	
77		×
78	○	
79	○	
80	○	